

「いきいき白石」のまちづくり

●定住化の促進

「白石市定住促進奨励金交付事業」は、申請件数も毎年増加していることから、本市への定住促進と地域の活性化を図るため継続します。

また、昨年度から開始した、転入者等支援市営住宅補助金、新婚家庭家賃補助金、子育て世帯市営住宅優先入居制度の3事業も継続します。

企業の新規立地または市内既存企業の関連事業所集約に伴う転入者に対し、市内賃貸住宅へ入居した際に家賃の一部を助成する「企業立地等に伴う転入者補助金制度」を創設し、雇用の拡大と本市へのさらなる定住促進を図ります。

●雇用の創出

緊急雇用創出事業およびふるさと雇用再生特別基金事業を通して、離職を余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者などに対して、雇用・就業の機会を創出・提供していきます。

また、昨年11月に株式会社「旭プロダクション」とのデジタルコンテンツを活用した地域振興等に関する包括協定を締結しました。そこで、中心市街地の活

性化と映像コンテンツ制作企業のさらなる集積を目的とした「映像コンテンツ制作企業立地促進奨励金制度」を創設します。

●交流人口の拡大

本市の豊かな自然環境、伝統文化を市外在住者にアピールするための「田舎暮らし体験ツアー」を、認定農業者などと連携し、「体験」「泊」「食」を一体化して実施します。

観光では、仙台・宮城DCで培った地域の連携を継続的に推進することを目的に設立された「仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会」に参画し、「仙台・宮城（伊達な旅）キャンペーン」活動を通して、市民と観光関係者が一丸となった取り組みを推進します。現在、「甲冑のあるまち白石」として、昨年度に購入した甲冑を商店街および市内の企業などに無料で貸し出す事業も実施しています。「観光都市しろいし」を広く発信しながら、市民とともににぎわいを創出し、交流人口の拡大を目指します。さらに、白石駅前の観光拠点として整備した「小十郎プラザ」を活用し、白石城主片倉小十郎公を広くアピールするとともに、小十郎関連グッズの新たな開発を支援します。

間交流の場」となるホワイトキューブのアーリーナを活用した各種スポーツ大会の開催に協力し、交流人口の拡大を図ります。本年度は、宮城県中体連バスケットボール大会、宮城県男女総合バスケットボール大会などが開催される予定です。

●中心市街地の活性化

地元商店組合などが行う中心商店街活性化に関する事業などに対し、商店街活性化対策助成金を交付するなど、商工会議所との連携を図りながら、にぎわいの創出を支援します。

また、官民協働で組織する「中心市街地の賑わいづくり研究会」の取り組みを継続支援し、民間の発想を活かした活気のあるまちづくりを推進します。

●経済対策

本市独自の再就職促進奨励金制度ならびに中小企業振興資金における融資限度額を維持し、保証料の全額補給を継続します。

●農業の振興

本年度からスタートする戸別所得補償モデル対策の「米戸別所得補償モデル事業と水田利活用自給力向上事業」をJAとの連携により、生産者と一体となり円滑に推進します。



第2回鬼小十郎まつり

また、市独自の農林振興施策である、地域農業の活性化などを支援する「地域農業いきいき推進事業」や農地の集積化を加速させる「農用地利用集積奨励事業」などを継続します。

野生鳥獣による被害が拡大していることから、持続的な農業振興を図るため、「農林作物鳥獣害防止対策事業」を継続します。さらに、地産地消の促進を図るため、給食センターとの連携を深めるとともに、産直所への支援を強化します。

「しろいしエコプロジェクト」の推進

●地域医療の確立

公立刈田総合病院は、市民の生命と健康を守る砦であり、今後も積極的な医師の招へいに努め、健全な運営に全力で取り組みます。また、白石市医師会、白石歯科医師会および近隣の福祉施設などとの地域連携を進め、市民の安全・安心のための地域医療ネットワークの確立を目指していきます。

●保健事業の推進

本年度、新たに国民健康保険被保険者の医療費の適正化と健康づくりのため、40歳および50歳の年齢者を対象に「人間ドック費用助成事業」を開始します。

●防犯防災対策

自主防災組織は、現在73自治会となりましたが、さらに組織づくりを支援するため、自主防災組織活動助成事業を継続します。

また、災害時に備え18の団体と相互援助および応急生活物資供給などに関し協定を締結しています。今後も関係機関、団体などと協定を締結し、市民の安全・安心を高めていきます。

さらに、資器材を計画的に備蓄するなど、防災関係機関との

防災体制の連携強化を図り、行政と市民が一体となった計画的で柔軟な災害対策を推進します。

「しろいし安心メール」を継続し、不審者情報や災害情報など、行政と市民が素早く情報の共有を図ることにより防犯、防災意識を高め、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

●環境対策

良好な環境を次の世代に引き継ぐため、昨年度策定した第2次環境基本計画に沿って取り組みます。

平成18年度から展開している「しろいしエコプロジェクト」（愛称…もったいない運動）は、さらに環境に配慮した事務・事業に取り組み、豊かな自然環境を守るため、市民の皆さまおよび事業者の方々の理解と協力をいただき、今後ともごみの減量化とリサイクルを推進します。

また、家庭生ごみ減量化の促進を図るための、電気式生ごみ処理機購入助成事業を継続します。さらに、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向け、市民の環境に対する意識の高揚およびクリーンエネルギーの普及推進を図るため、住宅用太陽光発電システム設置補助事業を創設します。

また、「しろいしサンキュー

●都市基盤の整備

市街地全域を網羅するための第2循環道路、都市計画道路「沖の沢郡山線」の本年度完成を目指します。

このほか、市道、農道の改良および舗装工事も、鋭意取り組みます。さらに、田町地区の公共下水道雨水幹線工事の推進を図ります。



アテナにアミスタジオが誕生



田舎暮らし体験ツアー



市内一斉クリーン作戦



白石工業高校による防災市民講座

行政改革の推進

平成17年度策定の「白石市行政改革推進計画（集中改革プラン）」に基づき、業務の民間委託や施設の指定管理者制度導入など、さまざまな改革を実施してきました。この計画が、平成21年度末で計画期間終了となることから、これまでの改革効果を再検証し、引き続き厳しい財政状況下においても限られた財源で質の高い行政サービスを提供します。このため、新たに策定しました、本年度から平成24年度までを計画期間とする、同プラン【改訂版】に基づき、より一層の行政改革を強力に推進します。

行政の透明性向上と職員意識改革を図ることを目的として実施してきた事務事業評価についても、さらに制度の改善・改良を図り、市民サービスの維持と向上に努めます。

第5次白石市総合計画の策定

平成13年度を初年度とした第4次白石市総合計画は、本年度に終期を迎えます。このため、平成23年度から平成32年度を目標準年次とする第5次総合計画の策定に着手したところです。

この計画は、市政の基本理念である「共汗・共学・共生」による「市民総参画のまちづくり」を基本に、アンケートやワークショップ、地域での懇談会などを開催しながら、本市の将来像を総合的にとらえた、市民に分かりやすい総合計画として本年度に策定します。

元気で活気ある白石市の実現

本年度の施策を着実に実行し、行政改革による健全財政に努めながら、少子高齢化による人口減少に歯止めを掛け、「4万人都市の復活」を願いながら一歩一歩前進させていきたいと思えます。

また、市政運営に当たっては、市民の皆さまの声を直接お伺いする「わいわいトーク」を引き続き実施し、事業の見直しや社会の変化にあった施策を取り入れていきます。

現在、戦国武将ブームによる「片倉小十郎公」と「白石温麺」の人氣が続いており、大勢の観光客においでいただいています。このブームと本市の施設や歴史などの地域資源を最大限活かしながら、市民の皆さまとともに「元気で活気ある白石市」の実現のため、全力で市政を執行する決意です。

今後とも、市民の皆さまの市政全般に対するなお一層のご支援とご協力をお願いします。